

2019年10月10日

沖縄県がん診療連携協議会議長

大屋 祐輔殿

小児・AYA部会長

百名 伸之

がん患者における生殖機能の温存について（提案）

近年のがんに対する薬物療法をはじめとする集学的治療の進歩により、治癒するがん患者や長期生存するがん患者が増えています。その反面、性腺機能不全や妊孕性の消失、そして早発閉経などを引き起こし、いわゆる患者さんの生活の質をおとす大きな要因の一つとなっています。

沖縄県においても、がん患者（すべての男性患者、0～50歳の女性患者）に対する生殖機能の温存に関する対応が不十分であると思われます。

特に拠点病院等においては、別紙の「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」にあるように、「生殖機能の温存に関しては、患者の希望を確認し、院内または地域の生殖医療に関する診療科についての情報を提供するとともに、当該診療科と治療に関する情報を共有する体制を整備すること。」が義務付けられています。

そこで、小児・AYA部会では、

- 1 協議会に参画している6つの拠点病院等における対象患者すべてに別紙のような資料を、主治医から配布し、かつ説明を行うことを提案します
- 2 そのために、沖縄県共通（当初は、県拠点病院から）の説明文書を作ることを提案します

## がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針

### I がん診療連携拠点病院等の指定について

### II 地域がん診療連携拠点病院の指定要件について

#### 1 診療体制

##### (1) 診療機能

##### ① 集学的治療等の提供体制及び標準的治療等の提供

コ 思春期と若年成人（Adolescent and Young Adult; AYA）世代（以下「AYA世代」という。）にあるがん患者については治療、就学、就労、生殖機能等に関する状況や希望について確認し、必要に応じて、対応できる医療機関やがん相談支援センターに紹介すること。

サ 生殖機能の温存に関しては、患者の希望を確認し、院内または地域の生殖医療に関する診療科についての情報を提供するとともに、当該診療科と治療に関する情報を共有する体制を整備すること。

### III 特定機能病院を地域がん診療連携拠点病院として指定する場合の指定要件について

### IV 都道府県がん診療連携拠点病院の指定要件について

### V 国立がん研究センターの中央病院及び東病院の指定要件について

### VI 特定領域がん診療連携拠点病院の指定要件について

### VII 地域がん診療病院の指定要件について

#### 1 診療体制

##### (1) 診療機能

##### ① 集学的治療等の提供体制及び標準的治療等の提供

コ AYA世代にある、がん患者については治療、就学、就労、生殖機能等に関する状況や希望について確認し、必要に応じて、対応できる医療機関やがん相談支援センターに紹介すること。

サ 生殖機能の温存に関しては、患者の希望を確認し、院内または地域の生殖医療に関する診療科について情報を提供するとともに、当該診療科と治療に関する情報を共有する体制を整備すること。

### VIII 既指定病院の取扱い、指定・指定の更新の推薦手続等、指針の見直し及び施行期日について

# がん治療開始前に 考えておきたいこと

## 「妊よう性温存療法」について

(受精卵・卵子・精子凍結)

放射線療法やある種の抗がん剤により、  
がん克服後に妊娠が困難になることがあります。  
特に若いがん患者さんにおいては、  
がん治療開始前に受精卵や卵子、精子を  
凍結することで、がんを克服した後も  
妊娠の可能性を残しておくことができます。  
まずはがんを治療することが大前提ですが、  
その後の妊娠について不安をお持ちのかたは  
ぜひ、主治医へご相談ください。  
がんの状態を十分に把握し、  
妊よう性温存療法が可能かどうか  
相談させていただきます。

琉球大学医学部附属病院 産婦人科



※詳細は琉球大学医学部附属病院ホームページをご覧ください。

## 沖縄がんと生殖医療ネットワーク

事務局：琉球大学医学部附属病院 産婦人科 TEL:098-895-1177

## がん治療と妊娠

～がん治療克服後の妊娠の可能性を残すことについて～

近年、がんに対する集学的治療の進歩によって、多くの患者さんが癌を乗り越えるようになってきています。しかし、若い患者さんに対する化学療法や放射線治療は、卵巣や精巣の機能不全、妊娠する可能性の消失、早発閉経などを引き起こす場合があります。がん治療によってそのような状況になる可能性の高い患者さんに対しては将来妊娠する可能性を残す方法(妊孕性にんようせい温存療法)として、男性は精子凍結、女性では卵子・受精卵凍結を行っています。

まずはがんを治療することが大前提ですが、その後の妊娠について不安をお持ちのかたはぜひ、主治医へご相談ください。がんの状態を十分に把握し、妊孕性にんようせい温存療法が可能かどうか相談させていただきます。

### <対象>

40歳未満の男女で、がんの予後が良好であると予想され、治療終了後に挙児を希望する患者さん。既婚・未婚は問いません。

## <紹介方法>

- ① がん治療担当医(主治医)に、妊孕性にんようせい温存療法についてご相談ください。主治医ががんの状態を考慮し、妊孕性にんようせい温存療法について検討してもよいと判断した場合は、当院へ紹介いただくことになります。
- ② 当院地域連携室を通して「がんと生殖医療カウンセリング」へ予約いただきます。

## <診療費について>

1. カウンセリングは自費診療(10,000 円)となっております。
2. 卵子凍結はおよそ 20~25 万円、精子凍結はおよそ 2 万円かかります。

## ご紹介から卵子・受精卵・精子凍結までのながれ

患者さんよりがん治療医へ<sup>にんようせい</sup>妊孕性温存療法について相談ください

主治医と当院生殖内分泌専門医により、  
妊孕性温存療法が可能かどうか事前に協議いたします。  
(この時点では妊孕性温存療法を行うかどうかは未定です)

各病院の地域連携室を通して  
当院地域連携室シエントへ予約

### がんと生殖に関するカウンセリング

- (1) 原疾患の治療と卵巣機能の低下の関連性
- (2) 卵子・受精卵凍結の実施が原疾患の予後に影響を及ぼす可能性
- (3) 卵子・受精卵凍結の詳細と体外受精・胚移植の詳細
- (4) 凍結未受精卵子の保存期間と保存期間を過ぎた場合の取り扱い
- (5) 費用、その他

排卵誘発（連日注射など）  
採卵手術（静脈麻酔 または局所麻酔）→卵子・胚凍結  
ここまでおよそ2週間～4週間  
精子凍結：当日～数日以内

沖縄がんと生殖医療ネットワーク  
琉球大学医学部附属病院産科婦人科  
教授(婦人科腫瘍専門医・指導医)青木 陽一  
講師(生殖医療専門医)銘苅 桂子

## 妊孕性についての説明

今回、あなた（あなたのお子さん）は \_\_\_\_\_ という病気の診断を受けました。この病気は悪性腫瘍のひとつで、いわゆる「小児がん」にあたります。生命に関わる病気であり、正確な診断とエビデンスに基づいた治療が必要です。治療は、抗がん剤を用いる化学療法、放射線治療、外科的手術、造血細胞移植があり、病状に応じて選択していきます。治療が進歩している現在、小児がん全体の治癒率は 80% に上っています。

これらの治療は残念ながら副作用を伴います。詳細は主治医より別途説明を受けていると思います。その中でも重要なことが、「妊孕性」です。これは将来妊娠し子どもを授かることが可能かどうか、ということです。女の子でも男の子でも同じ問題です。以下に、少し詳しく説明します。

治療に用いる抗がん剤、放射線は、本質的に卵巣機能、精巣機能を障害する作用があります。その結果、無月経、乏精子症をきたし、生殖能力が低下します。どのような抗がん剤をどの程度使用すると、また放射線をどの部位にどの程度照射すると、機能がどの程度失われるのか、ということについては、ある程度のデータがありますが、よく分かっていないこともあります。詳しくは、別途の「がん治療を開始するにあたって」をお読みください。今回のあなた（あなたのお子さん）の治療について、大きな影響がなければ特に心配なさらないで結構です。もし、妊孕性に問題がある治療であれば、治療前に妊孕性を温存することを考えていただく必要があります。

現在、当院の産婦人科ではそのような患者さんのために、「妊孕性温存療法」の専門外来を開設しています (<http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/information/jsfp.html>)。ご希望があればご紹介いたしますので、いつでも主治医に申し出てください。女兒では卵子・卵巣凍結保存、男児では精子凍結保存（思春期以降）が可能です。思春期前の男児については、精巣組織凍結保存が一部の施設で研究的に行われています。

今、困難な病気を発症したばかりで、身体も心もとても厳しい状況にあることは理解しております。しかし、治療で病気が治った後、将来パートナーを得て子どもを授かれるよう、現時点でできる最善の方法を考えていただきたいと思います。私たちは、そのための支援を惜しみません。

令和 年 月 日

説明者 \_\_\_\_\_

同席者 \_\_\_\_\_

## 妊孕性についての説明

今回、あなた（あなたのお子さん）は \_\_\_\_\_ という病気の診断を受けました。この病気は難治生で生命に関わる病気であり、正確な診断とエビデンスに基づいた治療が必要です。今回、あなた（あなたのお子さん）の治療については造血細胞移植が最善と判断しました。

造血細胞移植については、残念ながら副作用、合併症を伴います。詳細は主治医より別途説明を受けていると思います。その中でも重要なことが、「妊孕性」です。これは将来妊娠し子どもを授かることが可能かどうか、ということです。女の子でも男の子でも同じ問題です。以下に、少し詳しく説明します。

移植前処置に用いる抗がん剤、放射線は、本質的に卵巣機能、精巣機能を障害する作用があります。その結果、無月経、乏精子症をきたし、生殖能力が低下します。どのような抗がん剤をどの程度使用すると、また放射線をどの部位にどの程度照射すると、機能がどの程度失われるのか、ということについては、ある程度のデータがありますが、よく分かっていないこともあります。今回のあなた（あなたのお子さん）の移植について、大きな影響がなければ特に心配なさらないで結構です。もし、妊孕性に問題がある治療であれば、治療前に妊孕性を温存することを考えていただく必要があります。

現在、当院の産婦人科ではそのような患者さんのために、「妊孕性温存療法」の専門外来を開設しています (<http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/information/jsfp.html>)。ご希望があればご紹介いたしますので、いつでも主治医に申し出てください。女兒では卵子・卵巣凍結保存、男児では精子凍結保存（思春期以降）が可能です。思春期前の男児については、精巣組織凍結保存が一部の施設で研究的に行われています。

今、困難な病気を発症したばかりで、身体も心もとても厳しい状況にあることは理解しております。しかし、治療で病気が治った後、将来パートナーを得て子どもを授かるよう、現時点でできる最善の方法を考えていただきたいと思います。私たちは、そのための支援を惜しみません。

令和 年 月 日

説明者 \_\_\_\_\_

同席者 \_\_\_\_\_

にんようせいおんぞんりょうほう

## 妊孕性温存療法（妊娠する可能性をのこすための治療）

今回のあなたの病気に対しては、抗がん剤を用いる化学療法、放射線療法、<sup>ぞうけつかん</sup>造血幹

さいぼういしょく

細胞移植等から最善と判断される治療法を選択いたします。しかしながらこれらの治療

法には副作用を伴います。その中の一つに、「妊孕性<sup>にんようせい</sup>の消失」があります。これは、治療が終わった後、妊娠子どもを授かるが可能性が消失する、ということです。女性でも男性でも同じ問題です。以下に、少し詳しく説明します。

抗がん剤や、放射線は、卵巣の機能、精巣の機能を障害する作用があります。その結果、無月経（生理がこない）、乏精子症（精子の数が減る）をきたし、妊娠する能力が低下します。どのような抗がん剤をどの程度使用すると、また放射線をどの部位にどの程度照射すると、機能がどの程度失われるのか、ということについては、ある程度のデータがありますが、よく分かっていないこともあります。もし今回の治療が卵巣や精巣の機能を障害する可能性があれば、治療前に将来妊娠する可能性を残しておくことを考えていただく必要があります。

現在、当院の産婦人科ではそのような患者さんのために、「妊孕性<sup>にんようせいおんぞんりょうほう</sup>温存療法（将来妊娠する可能性を残しておく方法）」の専門外来を開設しています（<http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/information/jsfp.html>）。ご希望があればご紹介いたしますので、いつでも主治医に申し出てください。もともとの病気の状態にもよりますが、女性では卵子・卵巣凍結保存、男性では精子凍結保存が可能です。

今、困難な病気を発症したばかりで、身体も心もとても厳しい状況にあることは理解しております。しかし、治療で病気が治った後、子どもを授かれるよう、現時点でできる最善の方法を考えていただきたいと思います。私たちは、そのための支援を惜しみません。

令和 年 月 日

琉球大学医学部附属病院 \_\_\_\_\_ 科

説明者 \_\_\_\_\_ 印

同席者 \_\_\_\_\_ 印